

(臨床研究に関する公開情報)

岡崎市民病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 歯性上顎洞炎に対する歯科口腔外科および耳鼻咽喉科での治療法の比較検討

[研究責任者] 歯科口腔外科 長谷川 令賀

[研究の背景]

歯性上顎洞炎は、歯の炎症が上顎洞内に波及し鼻汁、後鼻漏、鼻閉感、悪臭などの臨床症状をきたす疾患である。副鼻腔炎全体の 10%程度と言われており、診断は臨床症状、原因歯の存在、画像検査で総合的に診断される。治療法は原因歯の治療と副鼻腔炎の治療が必要であり、医歯連携の必要な分野である。現段階では保存的治療として歯科では根管治療、耳鼻咽喉科では通常の副鼻腔炎に準じた治療が一般的であり、保存的治療で効果がみられない場合は抜歯や内視鏡下鼻内副鼻腔手術（Endoscopic Sinus Surgery：ESS）の適応となる。受診した診療科により治療方針が左右されるので、統一された治療プロトコール（方針・手順）がないのが現状である。本研究では、歯性上顎洞炎に対して当院歯科口腔外科と耳鼻咽喉科にて、抜歯と ESS をおこなった患者を比較し、治療経過を検討した。

[研究の目的]

歯性上顎洞炎は歯の炎症が原因で上顎洞へ波及し様々な臨床症状をきたす疾患であり、歯科口腔外科と耳鼻咽喉科どちらの診療科でも治療される疾患である。そのため統一された治療方針がなく、医歯連携が必要である。両診療科での治療法や治療経過を比較することで、今後の治療方針を決定する際の一助となるよう検討をおこなった。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

歯性上顎洞炎の患者さんで西暦 2017 年 1 月 1 日から西暦 2021 年 12 月 31 日の間に、歯科口腔外科および耳鼻咽喉科にて抜歯と内視鏡下鼻内副鼻腔手術（Endoscopic Sinus Surgery：ESS）を受けた方。

●研究期間：西暦 2022 年 8 月 25 日から西暦 2022 年 10 月 31 日

●利用する検体、カルテ情報

検体：血液、膿汁（通常の診療で使用した検査結果を使用し、研究のためだけの検査は行いません。）

カルテ情報：

① 臨床所見（年齢、性別、診断名、原因歯、病歴に関する情報、その他）

- ② 血液所見（初診時及び治療後の血液検査所見）
- ③ X線写真（初診時及び治療後のパノラマレントゲン写真、一般撮影写真）
- ④ C T（初診時及び治療後の上顎洞の単純C T、歯科用コーンビームC T）
- ⑤ 鼻腔ファイバー所見（治療後の評価のための撮影写真、所見）
- ⑥ 細菌培養検査（処置の際に採取した膿汁）
- ⑦ 治療前後の症状や処置内容など

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

岡崎市民病院

444-8553 愛知県岡崎市高隆寺町字五所合3番地1

歯科口腔外科 長谷川 令賀

電話 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913